



民生委員制度創設100周年

特集

知っていますか
地域の身近な相談相手

民生委員・児童委員



皆さんは「民生委員・児童委員」(以下、民生児童委員)をご存知ですか。今年、民生委員制度が創設100周年を迎えます。

少子高齢化や核家族化などの進行とともに、人と人とのつながりが薄れてきている中で、地域住民の声に耳を傾け、地域福祉の担い手として活動する民生児童委員に密着し、その活動を紹介します。

岡生活福祉課 ☎32-2064

つながり合って地域を支える

民生児童委員

津山市民生児童委員連合協議会会長の高山科子さんに、民生児童委員とは、どういった人たちがどのような思いで活動しているのかを聞きました。



津山市民生児童委員連合協議会 岡山県民生委員児童委員協議会 会長 高山科子さん (山方)

民生委員は、地区からの推薦を受け、厚生労働大臣が委嘱する非常勤の地方公務員です。また、児童福祉法により、子どもに関する相談や支援を行う児童委員を兼ねています。任期は3年で、全国一律に改選が行われます。

委員たちは「この地域が好き」「自分の地域は自分が守る」という思いのもと、安心で暮らしやすい地域社会をつくるため、地域住民の立場に立った、身近な相談相手となるよう頑張っています。

わたしは、平成7年に民生児童委員になり、20年余りにわたって地域の皆さんに寄り添い、虐待や家庭内のもめ事などの相談に乗ってきました。泣いたり笑ったり、苦労することも多いですが、相談に乗った人たちから「ありがとう」の言葉を言われるたびに、人と人を感じの気持ちでつなぐ素晴らしき活動だと感じています。

岡山県が発祥として創設された

民生委員制度(前身は済世顧問制度)は、今年5月12日で100周年を迎えます。現代では家族関係が希薄化となり、孤独死や介護放棄などさまざまな問題が生じています。過疎化や高齢化などにより、民生児童委員のなり手不足が問題となってきましたが、これからは、地域とともに暮らし、生きがいをつくっていくことが重要です。100周年の節目を期に、先人たちが築いてきたこの制度の功績を民生児童委員一人ひとりが胸に刻み、次の世紀へと力強くスタートを切っていきたいです。

「地域のつなぎ役」 民生児童委員の活動

民生児童委員は、広く地域の実情に通じ、社会福祉の増進に熱意のある人などが地域から選ばれ、現在、津山市では283人に委嘱されています。子育てや介護の悩み、高齢者による生活の不安など幅広い相談に乗っています。また、地域を見守ったり、福祉サービスの情報提供などをしたりして、「地域のつなぎ役」として活動しています。



*1 主任児童委員とは、児童福祉を専門的に担当する人です。児童関係機関と連携・調整を行い、各地域の民生児童委員と協力して児童福祉を推進します

家庭訪問・安否確認・生活状況の把握をしています

一人暮らしの高齢者や生活上の問題を抱えている人、子育て世代などの家庭に訪問して、日常生活の悩みや心配ごとの相談を受けたり、近況や急病に備えた連絡先を確認したりします。



地域をいつも見守っています

地域住民の安心や安全を守るため、担当地区を訪問して、犯罪や虐待の防止につなげています。

また、小・中学校での朝のあいさつ運動や授業参観も行っています。



福祉サービスの情報を提供し、関係機関につなぎます

相談内容は、子育て、介護保険、生活費、家庭内の問題、年金・保険、健康づくりなどさまざまです。福祉サービスの情報提供を行ったり、要望を関係機関や各団体につないだりします。



各地区の民生児童委員の人数 (主任児童委員 *1を含む)

地区・人数			
城東25人	城下16人	南部21人	阿波5人
城西24人	東部20人	北部19人	勝北24人
城南27人	西部24人	加茂25人	久米26人
城北27人	合計283人		

豆知識①

民生委員制度は岡山県が発祥

大正5年(1916)、当時の岡山県知事が大正天皇から「県下の貧しい人々の状況はどうか」と尋ねられました。知事はすぐに県内の貧困状況を調査し、県民の1割が悲惨な生活状況にあることを知り、大正6年(1917)に海外的先進事例を参考に「済世顧問制度」を開始しました。知事が委嘱した「済世顧問」が貧困者の相談相手となり、気持ちを和らげたり、物を斡旋したりして貧困を食い止めようとしました。この取り組みが現在の民生委員制度の原点となっています。

豆知識②

民生児童委員のシンボルマーク

幸せの芽生えを示す四つ葉のクローバーと民生委員の「み」の文字、児童委員を示す「双葉」を組み合わせ、平和のシンボルの鳩をかたどっています。

このマークは愛情と奉仕を表し、民生児童委員に配られるバッチのデザインなどに使われています。

